

決算の概要について

学校法人二階堂学園の令和3年度決算は、監事および公認会計士の監査を経て、5月31日の理事会において承認され、評議員会で報告いたしました。

資金収支計算書について

【収入の部】

- ① 学生生徒等納付金収入
大学で学費未納による除籍者が予算時の見込よりも少なかったため、「学生生徒納付金収入」全体では予算と比較して200万円強増加し、決算額は31億2,400万円強となりました。
- ② 手数料収入
「入学検定料収入」で、大学と我孫子高校の志願者数が補正予算編成時の見込よりも減少したため、「手数料収入」全体で400万円強減少し、決算額は5,700万円強となりました。
- ③ 寄付金収入
創立100周年記念募金で、寄付金額が補正予算編成時の見込みよりも多かったことにより、予算額と比較して50万円強増加し、決算額は2,900万円強となりました。
- ④ 補助金収入
大学、二階堂幼稚園、附属保育園の経常費補助金・運営助成金について、補正予算積算時に低めに見積もっていたことにより、全体で3,600万円強増加し、決算額は10億3,600万円強となりました。
- ⑤ 付随事業・収益事業収入
大学の受託事業収入、みどり幼稚園と二階堂幼稚園の預り保育収入が増加したことにより、全体では600万円強増加し、決算額は1億9,400万円強となりました。
- ⑥ 受取利息・配当金収入
補正予算積算時に、受取利息・配当金を低めに見積もっていたため、600万円強の増加となり、決算額は1億300万円強となりました。
- ⑦ 雑収入
大学で第一生命グラウンドの利用料について予算未計上だったこと、補正予算編成後に複数名の任意退職者が生じたため、各退職団体からの交付金収入が増加となったことにより、全体で1,600万円強増加し、決算額は9,600万円強となりました。
- ⑧ 借入金等収入
附属高校の入学支度金利用希望者が少なかったため、320万円減少して、決算額は80万円となりました。
- ⑨ 前受金収入
大学の在学生（新2年から4年生）の令和4年度納付金納入者が見込より多くなったことから、2億6,600万円強増加し、決算額は11億3,900万円強となりました。
- ⑩ その他の収入
預り金収入及び前期末未収入金収入が、補正予算積算時と比較して減少したこと等により、決算額は4,500万円強減少し、12億7,000万円強となりました。
- ⑪ 資金収入調整勘定
補正予算見込よりも増加した「私学退職金団体交付金収入」が未収入金になったこと、大学で第一生命グラウンドの利用料、保育園で世田谷区保育所等運営助成金等の未収入金があったこと等により、期末未収入金が増加したため、予算と比較して1億円強増加し、決算額は△11億2,900万円強となりました。

【支出の部】

① 人件費支出

「職員人件費」で、コロナ禍の影響により大学の学生アルバイトが減少し、保育園では年度途中退職者の補充がなかったこと等により見込みを下回りましたが、「退職金支出」で、複数名の任意退職が生じたことにより、予備費を1,200万円強使用しました。「人件費支出」全体では900万円強減少し、決算額は24億7,400万円強となりました。

② 教育研究経費支出

光熱水費等の節減に努めたこと、コロナ禍の影響で旅費交通費の執行残が出たことや、各イベントが中止になり、学園バスの利用や東京都委託事業等の執行残が出たことにより減少となり、予算に対する執行率は91.8%でした。教育研究経費支出全体では、9,500万円強減少し、決算額は10億7,000万円強となりました。

③ 管理経費支出

コロナ禍の影響により、旅費交通費等の執行残が出たこと、大学で学生寮の光熱水費と清掃料、保育園で給食委託費の予算を多く見積もっていたこと、創立記念行事費で寄付金の依頼を見送ったこと等により減少となり、予算に対する執行率は91.7%でした。管理経費支出全体では、4,300万円強減少し、決算額は4億7,300万円強となりました。

④ 施設関係支出

「建物支出」で、大学の図書館エレベータ防災対策工事、附属高校のD棟教室の空調更新工事、我孫子高校の東館2階女子トイレ改修工事等がありました。「建物支出」において、予算時の見込みよりも執行額が少なかったため、「施設関係支出」全体では、1,300万円強減少し、決算額は4,400万円強となりました。

⑤ 設備関係支出

「教育研究用機器備品支出」で、大学でプロジェクターや第一生命グラウンドで使用するバッティングゲージの購入、附属高校で放送設備、我孫子高校でプロジェクター、電子黒板等の支出があり、予備費を300万円強使用しました。「設備関係支出」全体では、100万円強減少し、決算額は4,800万円強となりました。

⑥ 資産運用支出

補正予算見込よりも60万円強減少し、決算額は19億9,600万円強となりました。

⑦ その他の支出

「預り金支出」、「前期末未払金支払支出」等の科目で、予・決算の差異が生じました。「その他の支出」全体では、予算と比較して3,100万円強増加し、6,400万円強の決算額となりました。

⑧ 予備費

予備費1億円のうち、1,600万円強を「人件費支出」「設備関係支出」に使用しました。

⑨ 資金支出調整勘定

調整してマイナスする「期末未払金」が、予算と比較して5,700万円強増加し、「資金支出調整勘定」全体で△9,100万円強の決算額となりました。

⑩ 翌年度繰越支払資金

以上の収支の結果、翌年度へ繰り越す支払資金（令和3年度末の現預金の額）は、28億1,200万円強となりました。これは、前年度末と比較すると1億2,000万円強の減少になります。

事業活動収支計算書について

令和3年度の事業活動収支計算書の概要は、次のとおりです。

事業活動収入は、教育活動収支で「学生生徒等納付金」、「寄付金」、「経常費等補助金」等が増加、「手数料」は入学検定料の伸び悩みから減少しました。また、教育活動外収支では「受取利息・配当金」が増加し、事業活動収入計は、補正予算と比較して6,600万円強の増加となりました。

事業活動支出は、教育活動収支で「教育研究経費（消耗品費・光熱水費・賃借料・報酬・委託手数料等）」、「管理経費（光熱水費・印刷製本費・報酬委託手数料等）」の両科目の執行率が各々91.8%、91.7%にとどまったこと等により、補正予算と比較すると1億4,700万円強の減少となり、全体では2億500万円強の減少となりました。

これにより、補正予算では「基本金組入前当年度収支差額」が、2億8,400万円強の支出超過となっていました。決算では、1,200万円強の支出超過となりました。

「基本金組入額合計」は、△2億6,900万円強の組入額となりました。組入額の中には、(仮称)創立100周年記念体育館新営その他工事に係る第2号基本金2億5,000万円が含まれています。

この結果、補正予算では5億5,500万円強の「当年度収支差額（赤字）」を計上していましたが、決算では2億8,100万円強の支出超過となりました。

「前年度繰越収支差額」は、47億9,400万円強の支出超過でしたが、「基本金取崩額」1億2,400万円強を含めた今年度の決算（収支結果）を受けて、「翌年度繰越収支差額」は、49億5,100万円強の支出超過となっています。

貸借対照表について

令和3年度（令和4年3月31日現在）の貸借対照表の概要は、次のとおりです。

「資産の部」では、「教育研究用機器備品」で、運動構造解析システム等の除却を行ったことや、「建物」等の減価償却により、「有形固定資産」が5億1,900万円強減少しました。「特定資産」では、(仮称)創立100周年記念体育館建設費支払いのための資金である「第2号基本金引当特定資産」や「減価償却引当特定資産」、「施設整備引当特定資産」を積み増したことにより、8億7,100万円強増加しました。「その他の固定資産」は、「有価証券（固定）」の減少等により、2億9,500万円強減少しました。このため、「固定資産」全体では、前年度末と比較して5,600万円強増加しました。「流動資産」は、「現金・預金」が1億2,000万円強減少し、「有価証券（流動）」が2億円強増加したこと等により、全体で3,500万円強の増加となりました。

この結果、「資産の部合計」は、前年度末と比較して9,200万円強増加し、287億7,400万円強となりました。

「負債の部」は、「固定負債」で「退職給与引当金」、「流動負債」で「前受金」等が増加したため、「負債の部合計」では、前年度末と比較して1億400万円強増加し、23億8,700万円強となりました。

「純資産の部」は、(仮称)創立100周年記念体育館取得のための第2号基本金2億5,000万円の組み入れにより、「基本金」が1億4,400万円強増加しました。また、「繰越収支差額」は1億5,700万円強減少し、△49億5,100万円強となりました。

この結果、「純資産の部合計」は、263億8,700万円強となりました。

以上